

実績報告書

届出者	住所	東京都新宿区西新宿八丁目17番1号 住友不動産新宿グランドタワー	氏名	T I S株式会社 代表取締役社長 桑野 徹
特定事業者の主たる業種		39情報サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		情報処理サービスにおける、データ処理のアウトソーシング事業及びハウジング等のデータセンター事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日	～ 平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	14,137 t-CO ₂	12,393 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,161 t-CO ₂	14,230 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-1.5 %	-1.5 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-1.8 %	-2 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(CPU使用電力量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>データセンターとオフィスがあり、「温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値」をデータセンターはCPU使用電力量(MWh)、オフィスは延床面積(m²)とします。届出の手引きに則り【m²】→【MWh】の換算係数をH26実績値より0.078【MWh/m²】とする。 10129.4/721.5【m²/t-CO₂】=14667.3/13415.5【MWh/t-CO₂】 → 延床面積【m²】×0.078【MWh/m²】 = 面積あたりのCPU使用電力量【MWh】</p>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>H28年度は、データセンターにてコンピューター機器の移設、撤去件数が増加し、温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(CPU使用電力量)が低下しました。空調環境見直し等の施策により、原単位は改善されましたが、基準年度(H26年度)からの比較では、削減には至りませんでした。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

多様化する温暖化対策に向けて、TIS全社の省エネルギー推進を行うTIS省エネルギー推進会議ならびに、TISデータセンターの省エネルギー施策を推進するTISデータセンター省エネルギー推進会議にて温暖化対策推進に関する協議を行っています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	T I S 大阪 センター	コード (1218) 高効率照明器具 具への変更	駐車場ランプの変更及び運用見直し B棟1階 駐車場17台の蛍光灯をHf蛍光ラ ンプへ変更し、点灯時間の見直しも実施 する。 (年間 0.2t-CO2を削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	T I S 大阪 センター	コード (1218) 高効率照明器具 具への変更	LED照明器具への変更 A棟各階トイレダウンライトをLED照明器 具へ変更する。 (年間 0.9t-CO2を削減)	29 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	T I S 大阪 センター	コード (1113) 空調環境改善	サーバー室空調環境改善 サーバー室における空調機稼働台数の適 正化を図り消費電力を削減する。 (年間129.4t-CO2を削減済。施策継続 中)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	T I S (株) オフィス	コード (1216) 運用変更	空調温度の省エネ設定を実施 未稼働場所または未稼働時間の空調停止 を徹底。 (年間 約3.0t-CO2削減)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	T I S (株) オフィス	コード (1218) 運用変更	未稼働場所や未稼働時間の消灯実施 (年間 約3.6t-CO2削減)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都板橋区坂下3-35-58	氏名	D I C株式会社 代表取締役社長 中西 義之
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>・主な事業内容は印刷インキ、有機顔料、合成樹脂等の製造・販売である。国内事業所として、2支店・9工場、国内外に關係会社174社を有しており、大阪府内には堺工場と大阪支店がある。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	21,426 t-CO ₂	22,222 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	22,535 t-CO ₂	23,439 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース) 2.96 %	6.7 %	3.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.3 %	3.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>・平成28年度は計画対策No1, No6の実施に加え、追加対策No15, No16を実施。生産量の増加や製品構成の変化(高エネルギー製品)の割合が増え、エネルギー使用量が増加する中、堅実に実施した対策により削減率3.4%を達成したと考える。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ・エネルギー管理体制として委員長、副委員長、委員、アドバイザー及び事務局（原動グループ）とエネルギー管理士で構成された省エネルギー推進委員会を組織。
- ・省エネ推進委員会を定期的に開催し、堺工場全体の省エネ計画に対する実績と各部署の対策の進捗を確認。
- ・省エネ推進委員を通じ、各部署のエネルギー管理、省エネ施策の推進、夏季と冬季の昼間の節電推進、エネルギー管理標準の推進、スチームトラップ・空調機器・圧縮空気の漏洩・保温配管の熱損失等の各種点検を実施

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (1216) 技術棟空調機 器更新	技術棟空調器更新による燃料削減 GHP→電気式 (28年度 51 t-CO2/年 削減) *実施スケジュール変更	25 年度
		人工排熱				～
	レ	平準化				30 年度
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) D変電所更新	平成27年度にD変電所を更新。 (50 t-CO2/年 削減)	27 年度
		人工排熱				～
	レ	平準化				27 年度
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) A変電所への 電力改善シ ステム設置	平成27年度にA変電所へ電力改善シ ステムを設置。(43 t-CO2/年 削減)	27 年度
		人工排熱				～
	レ	平準化				27 年度
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) C変電所への 電力改善シ ステム設置	平成27年度にC変電所へ電力改善シ ステムを設置。(35.0t-CO2/年 削減)	27 年度
		人工排熱				～
	レ	平準化				27 年度
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (1122) タンクヤード 加温方法見直 し	平成27年度にタンクヤードのトレース加 温方法を変更(24 t-CO2/年 削減)	27 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				27 年度
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) D変電所への 電力改善シ ステム設置	D変電所への電力改善システム設置にて 電力を削減する。 (48 t-CO2/年 削減)	28 年度
		人工排熱				～
	レ	平準化				28 年度
7	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) B変電所への 電力改善シ ステム設置	B変電所への電力改善システム設置にて 電力を削減する。(40 t-CO2/年 削減す る) *実施スケジュール変更	29 年度
		人工排熱				～
	レ	平準化				30 年度
8	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 冷却塔更新及 びインバー ター化	冷却水用の冷却塔を更新+インバータ化 することのより電力を削減する。(10 t- CO2/年 削減する) *実施スケジュール 変更	28 年度
		人工排熱				～
		平準化				29 年度
9	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) E変電所への 電力改善シ ステム設置	E変電所への電力改善システム設置は、 平成31年に変更した。	29 年度
		人工排熱				～
	レ	平準化				29 年度
10	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) ターボブロ ワアの更新	2次廃水処理設備のターボブローア更新 は平成31年に変更。	31 年度
		人工排熱				～
		平準化				31 年度
11	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 局所排気ブロ アの運用変更	平成27年度より、局所排気ブローアの運用 方法を変更 (70t -CO2/年 削減)	27 年度
		人工排熱				～
		平準化				27 年度

12	レ	GHG排出	堺工場	コード(1212) 原料加温方法 の変更	平成27年度にドラムウォーマーを導入し 運用開始(28t-CO2/年削減)	27年度 ～ 27年度
		人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	堺工場	コード(1212) 原料加温方法 の変更	平成27年度にヒーターBOXを設置 (15t-CO2/年削減)	27年度 ～ 27年度
		人工排熱				
		平準化				
14	レ	GHG排出	堺工場	コード(1126) エコキュートの 運用変更	平成27年度よりボイラ給水加温用エコ キュートの設定温度を変更 (17t-CO2/年削減)	27年度 ～ 27年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
15	レ	GHG排出	堺工場	コード(1126) 局所排気プロアの不要時停止	局所排気プロアの不要時停止 (28年度 31t-CO2/年削減)	28年度 ～ 28年度
		人工排熱				
		平準化				
16	レ	GHG排出	堺工場	コード(1123) 脱臭炉給水温 度の最適化	脱臭炉給水温度最適化による都市ガス削 減(28年度 62t-CO2/年削減)	28年度 ～ 28年度
		人工排熱				
		平準化				
17	レ	GHG排出	堺工場	コード(1122) 炉筒ボイラの 蒸気乾き度改 善	炉筒ボイラの蒸気乾き度改善による燃料 削減(62t-CO2/年削減予定)	29年度 ～ 30年度
		人工排熱				
		平準化				
18	レ	GHG排出	大阪支店	コード(1113) 空調機器の運 用方法変更	サーバー室及び電話交換機室の空調機器 の運転方法変更 (28年度 3.2t-CO2/年削減)	28年度 ～ 29年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪支店	コード(2113) 営業車ハイブ リッド化推進	営業車のハイブリッド化を推進し、全車 ハイブリッド化する。 平成28年度はハイブリッド化0台	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋三丁目7番20号	氏名	DICグラフィックス株式会社 代表取締役社長執行役員 谷上浩司
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		印刷インキ・印刷関連機材製造販売。東京に本社を置き、全国9工場で生産活動を展開している。大阪府には、枚方市に関西工場を置き、製造活動を展開している。平成21年10月1日にDIC株式会社、ザ・インクテック株式会社双方のインキ事業を分割し、共同で新会社を設立した。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,483 t-CO ₂	2,978 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,927 t-CO ₂	3,350 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	6.9 %	15.1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	7.1 %	15.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>抑制対策No.1、4、6、12を推進実施。使用エネルギーの削減を図った。 一昨年実施したボイラー更新により、燃料転化・燃焼効率アップの効果が昨年まで継続したこと、また、昨年実施した主要作業所の照明器具更新(LED)の効果も大きかった。 電力購入先を変更したことで、排出量の削減となった。ただし、2017年度は、変更前の電力会社と契約を締結したために、増加が予測される。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

事業所活動において、IS014001マネジメントシステムを採用し、工場長を最高経営層として事業所内組織を組成して環境活動を推進している。省エネ推進委員会を設置し、年間削減テーマを選定し、進捗管理を行なっている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西工場	コード (1113) 生産機械の運用改善	生産機械の運転管理を推進する。 ①生産効率改善による運転時間短縮。 ②製品処方変更による機械運転時間短縮。 ③不要時、機械停止の徹底	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) インバーター化推進	インバーター化推進 ①ポンプ類のインバーター化 ②ファン類のインバーター化	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西工場	コード (1299) 最適生産機器の選択導入	製造品目・製造サイズにより、最適な生産機を導入していく。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西工場	コード (1122) 冷却水システム改善	生産機械冷却水システムの機器更新とともに、システム改善を行い、冷却効率改善を図る。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西工場	コード (1114) 生産機の処理効率改善	3本ロール（生産機）を生産品目に合わせて研磨整備し、処理効率を高める。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	関西工場	コード (1218) 照明設備の改善	経年劣化した照明器具を更新し、電力量削減を図る。 ①更新時機器のLED化 ②センサー付自動消灯採用	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
7	レ	GHG排出	関西工場	コード (1126) 老朽化設備の更新による効率改善	生産機器のメンテナンス時期に合わせて、経年劣化したモーターのトップランナーへの更新を行い、効率改善を図る。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
8	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) 生産機の処理効率改善	分散攪拌機のインバーター化により、最適回転数にて生産を行い、消費電力改善を図る。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
9	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) インバーター化による効率改善	コンプレッサー更新時期において、インバーター式に変更し、負荷変動に対応することで、効率化を図る。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
10	レ	GHG排出	関西工場	コード (1211) 蒸気ボイラーの効率化による燃料削減	灯油炉筒煙管ボイラーをガス炊貫流ボイラーに更新し、効率改善を図る。	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				
11	レ	GHG排出	関西工場	コード (1216) 老朽化設備の更新による効率改善	老朽化空調機の更新による効率改善	27 年度
	レ	人工排熱				30 年度
		平準化				

12		GHG排出	関西工場	コード(5121) 一部作業場所 のシフト勤務	事業所の電力使用量ピークとなる11時～ 14時を避けて、工場1棟をシフト勤務と した。約10%のピークシフト。	27 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	関西工場	コード(1216) 老朽化設備の 更新による効 率改善	老朽化チラーの更新による効率改善	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)	
1			コード		年度 ～ 年度	
						GHG排出
						人工排熱

(3)その他の抑制対策

<p>省エネ推進委員会により実施テーマの進捗管理を行っている。 エネルギー使用状況を、月別・建物別に集計し、毎月該当場所にフィードバックすることにより、各 人の意識啓蒙を図る。</p>

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市大正区船町1-3-47	氏名	テイカ株式会社 代表取締役社長 名木田 正男
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		各種化学工業薬品（界面活性剤・各種硫酸・無公害防錆顔料・酸化チタン他）の製造販売を行っており、国内に3工場（大阪府内1工場・岡山県内2工場）、大阪に本社、東京に支店があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,022 t-CO ₂	8,222 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,304 t-CO ₂	8,512 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	2 %	-3.4 %	3.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-3.4 %	3.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>全温室効果ガス排出量(t-CO₂)を大阪工場の生産量(千t)で割ることにより、原単位を(t-CO₂/千t)を設定しました。従って、以下のようになります。</p>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>対策の実施、及び生産量の増加により原単位は、基準年度(平成26年度)から3.6%低下したが、温室効果ガス総排出量は200t-CO₂増加した。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

大阪工場は平成12年に環境マネジメントシステムの認証を取得し、同システムの活動において省エネルギーの推進を継続しています。年間の活動状況は、内部監査、マネジメントレビューの実施により、進捗状況を把握するとともに、3ヶ月毎に報告書を作成し、年間目標が達成できるように計画見直し等の検討も実施しております。今後も、この体制を維持、継続し、省エネルギーの推進に努めていきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218) LED照明導入	屋外照明LED化(工場全般) 2t-CO ₂ /年(原油1kL/年) ⇒H27年度実施済	27年度～
	レ 人工排熱				27年度
	平準化				
2	レ GHG排出	大阪工場	コード(1122) 冷却水をタワー水に転換	冷却水をタワー水に転換することによるチラー電力削減(アルキルサルフェート製造工程) 56t-CO ₂ /年(原油28kL/年) ⇒H27年度実施済	27年度～
	レ 人工排熱				27年度
	平準化				
3	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) 工業用水ポンプのインバーター化	工業用水ポンプインバーター化(工場全般) 2t-CO ₂ /年(原油1kL/年) ⇒H27年度実施済	27年度～
	レ 人工排熱				27年度
	平準化				
4	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) 熱風循環ファンのインバーター化	焼成炉熱風循環ファンインバーター化(トリポリリン酸アルミニウム製造工程) 76t-CO ₂ /年(原油38kL/年) ⇒H27年度実施済	27年度～
	レ 人工排熱				27年度
	平準化				
5	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218) LED照明導入	硫酸工場照明LED化(硫酸製造工程) 4t-CO ₂ /年(原油2kL/年) ⇒H27年度実施済	27年度～
	レ 人工排熱				27年度
	平準化				
6	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) 省エネベルト導入	Vベルト駆動装置への省エネベルト導入(工場全般) ⇒継続検討するも費用対効果が見込めず H28年度取りやめ	27年度～
	レ 人工排熱				28年度
	平準化				
7	レ GHG排出	大阪工場	コード(1125) 省エネ型スチームトラップへの取り替え	省エネ型スチームトラップへの取り替え推進(工場全般) ⇒継続検討するも費用対効果が見込めず H28年度取りやめ	27年度～
	レ 人工排熱				28年度
	平準化				
8	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218) LED照明導入	アルキルベンゼンスルホン酸製造設備AD工場内照明LED化 26t-CO ₂ /年(原油13kL/年)削減 ⇒H28年度実施済	27年度～
	レ 人工排熱				28年度
	平準化				
9	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) ガスブローのインバーター化	アルキルベンゼンスルホン酸製造設備S-1ガスブローインバーター化 12t-CO ₂ /年(原油6kL/年)削減 ⇒H28年度実施済	27年度～
	レ 人工排熱				28年度
	平準化				
10	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) 高効率トランスへの更新	工場一般高効率トランスへの更新 6t-CO ₂ /年(原油3kL/年) ⇒H29年度実施予定	28年度～
	レ 人工排熱				29年度
	平準化				
11	レ GHG排出	大阪工場	コード(1215) 高効率トランスへの更新	トリポリリン酸アルミニウム製造工程高効率トランスへの更新 6t-CO ₂ /年(原油3kL/年) ⇒H30年度実施予定	29年度～
	レ 人工排熱				30年度
	平準化				

12	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1126) メインプロ ワー更新によ る省電力化	アルキルサルフェート製造設備 メインプロワー更新による省電力化 83t-CO2/年(原油41kL/年) ⇒H30年度実施予定	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1126) メインプロ ワー省電力シ ステム導入	硫酸製造設備 メインプロワー省電力システム導入 20t-CO2/年(原油10kL/年) ⇒H30年度実施予定	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード(2114) 自動車の維持管理	自動車の維持管理を継続する。 ⇒継続中	27年度 ～ 30年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード(2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進を継続する。 ⇒継続中	27年度 ～ 30年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区大淀中1丁目1番20号	氏名	株式会社テルワイノベーション 代表取締役 森田 雅実
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にホテル業を営んでおり大小宴会場及びレストラン、フィットネス施設等を有している。平成27年5月まではホテル外にファクトリー（パン・ケーキ製造・食肉加工工場）を有していたが廃止して、現在はホテル内に集約。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,670 t-CO ₂	6,241 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,741 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	5.3 %	6.5 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.3 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>客室照明のLED化、厨房冷蔵庫・冷凍庫の高効率機器の導入、インバウンド増及び高稼働率の状況下では有ったが、CO₂削減を行う事が出来た。次期計画年度も引き続きLED化、高効率冷蔵・冷凍庫の導入を図りたい。今年度からは、バックエリアのLED化を図る。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

施設管理部が主導し、総支配人を中核に、省エネルギー推進委員会を通じ、設備投資・省エネ啓蒙活動を推進して参ります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1112) BEMS活用によるエネルギー管理強化	BEMS装置を活用し、設備ごとにエネルギー管理や運用状況を掌握し、エネルギー管理を強化する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1216) 空調機変風量制御	空調機にインバーター装置を駆使し、室内環境応じて回転数制御を実施、低負荷時の搬送動力の低減を図る。回転数は室内温度、室内CO2濃度により、制御を	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1216) 外調機変風量制御	外調機にインバーター装置を駆使し、室内環境応じて回転数制御を実施、低負荷時の搬送動力の低減を図る。回転数は室内温度、室内CO2濃度により、制御を	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1217) 排気ファン変風量変調	排気ファンインバーター装置を駆使し、駐車場境応じて回転数制御を実施、低負荷時の搬送動力の低減を図る。回転数は室内CO濃度により、制御を行う。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1218) 照明LED推進	客室内3314個、客室廊下1052個、状況が許せば駐車場照明887個をLED化し、CO2削減を目指す。上記は変更中。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1123) 蒸気廃熱利用の検討実施	使用した蒸気の廃熱温水を貯湯槽給水系統の昇温に利用可能か検討を行い、可能な場合は廃熱利用を行う。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	ウェスティンホテル	コード (1217) 換気式熱交換器設置	1Fロビーに換気式熱交換器が設置可能か、検討を行い、実施可能であれば設置する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府貝塚市二色中町11-1	氏名	株式会社テザックワイヤロープ 代表取締役社長 高木 功
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ワイヤロープの製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,006 t-CO ₂	7,722 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,799 t-CO ₂	8,463 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	0.5 %	-7 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.8 %	-6.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>電力使用量は、クーリングタワーのインバータ化や工場内の天井照明をLED化したこと等により削減に努めた。</p> <p>都市ガスについては、使用量は増加したものの、事務所空調(ガスヒーポン)を更新したことにより使用量の削減に努めた。</p> <p>尚、原単位の方は、生産量減の影響で悪化した。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エコアクション21の運用に基づいて、CO2の削減に努める。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	二色浜製造所	コード(1126) 撚線機・伸線機主モーターのインバータ化	撚線機・伸線機を更新する際に、インバーターモーターを順次実施。	21年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	二色浜製造所	コード(1216) 事務厚生棟に省エネタイプ空調設備を導入	事務厚生棟に省エネタイプ空調設備を導入済。	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	二色浜製造所	コード(5115) 電灯回路変圧器のタップ変更	電灯回路変圧器のタップ変更し、電圧を下げることで、照明器具等の消費電力を低減を実施済。	26年度 ～ 26年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4		GHG排出	二色浜製造所	コード(5121) 生産設備の一部停止	平準化時間帯は、生産設備を一部停止する。(H24年度より継続中)	24年度 ～ 0年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	二色浜製造所	コード(1113) 空調機の運転管理の徹底	空調機の運転管理を徹底した。(設定温度の管理、こまめにスイッチを切る。)	28年度 ～ 33年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	二色浜製造所	コード(1212) ヒートオイラーの保温	ドラム缶型ヒートオイラー(ワイヤーロープに塗布するグリスを溶かすヒーター)の保温材施工による省エネ化を順次実施。	28年度 ～ 0年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市永和2-7-30	氏名	社会福祉法人 天心会 理事長 東 司
特定事業者の主たる業種		85社会保険・社会福祉・介護事業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		小阪病院：精神科・神経科・内科（537床）デイケアセンター他 救護施設 フローラ：救護施設（90床） 看護専門学校：3年課程全日制（定員50名） 特別養護老人ホーム ヴェルディ八戸ノ里：全個室（100室） - 他		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,569 t-CO ₂	3,796 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,607 t-CO ₂	3,848 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-0.6 %	-6.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-0.5 %	-6.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延べ床面積) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)
--

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

・夏季の空調機負荷の増加によりエネルギー使用量が増加し削減に至らなかった。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>・ 週一回の定例会議にて空調管理の徹底及び不要照明消灯等の協力要請を行う。</p>
--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1122) 空調設備・ボイラー設備の適正運用	セントラル式温度設定のみではなく個別運転機器について管理を徹底する	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策
